

低用量経口避妊薬 / 低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬の内服に関する説明

低用量経口避妊薬 / 低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬(以下、低用量ピル)には、高い避妊効果や月経に付随するさまざまな困った症状を改善する効果が期待できます。理想的に内服したとして100人の女性が1年間内服した場合の妊娠数、すなわち避妊に失敗した確率を示す指数としてパール指数が用いられていますが、低用量ピルの場合、パール指数は0.3です。つまり、100人の女性のうち、1年間に0.3人の方が避妊に失敗する計算になります。これはいくつかの避妊方法のなかで最も低い指数、つまり最も有効であることを示しています。また、生理痛や過多月経の改善を期待することができ、子宮内膜症に伴う月経困難の改善や卵巣内膜症性のう胞の縮小効果も期待できるとされています。

しかし、一方で副作用もあります。軽い副作用としては不正出血、はき気などです。不正出血は服用継続とともに減少することが多いのでしばらく続けてみてください。最も重大な副作用は血栓症です。血栓症とは、動脈や静脈の中で血液が固まりやすくなり、その場で血管を塞いだり、あるいは固まった血液(血栓)が流れて大きな血管を詰まらせることにより重大な症状を起こすこと(下肢静脈血栓症、肺梗塞、末梢動脈血栓症、心筋梗塞、脳卒中など)で、悪くすると生命に関わることもあります。

静脈血栓症の発症頻度

低用量ピル非内服者の静脈血栓症の頻度 1~5/10000 婦人・年間

低用量ピル内服者の静脈血栓症の頻度 3~9/10000 婦人・年間

妊婦と褥婦(12週間)の静脈血栓症の頻度 5~20、40~65/10000 婦人・年間

静脈血栓塞栓症の症状は次のようなものです。症状が出たら速やかに当クリニックへ連絡をするか、最寄りの病院を受診しその際、「患者携帯カード」を提示して下さい。

1. 激しい腹痛
2. 激しい胸痛、息苦しさ、押しつぶされるような痛み
3. 激しい頭痛
4. 見えにくい、視野が狭い、舌のもつれ、失神、けいれん、意識障害
5. ふくらはぎの痛み、むくみ、押すと痛い、赤くなっている

先天性に血液が固まりやすい体質の方も少ない頻度でおられますが、加えて年齢、肥満、血圧、喫煙、血糖値、血中脂質濃度などの因子が重要となります。当クリニックでは、初回治療は40歳までとなります。継続処方43歳までとさせて頂いております。また、初診時の問診や検査の結果でリスクが高いと判断された方には低用量ピルを処方できないこともあります。また、今まで処方してきた方でも何等かのリスク要因が加わったと判断された場合は処方を中止させて頂く場合もあります。

血栓症の発症は内服開始から3か月が最も多いと言われているため、低用量ピルの処方は、初めの3か月は1か月毎に診察が必要です。4か月以降は状態に問題がなければ最大で3か月分の処方が可能です。4週間以上内服を中止していた場合はまた最初に戻り、内服再開から3か月は1か月毎の診察が必要となります。

検査内容や処方可用量は以下の通りです。

① 初診時

問診、血圧、身長、体重、BMI の測定

内診:子宮頸がん検査、超音波検査、(STD 検査:クラミジア淋菌 PCR 自費:任意)

血液検査:末血、GOT/GPT、LDL、HDL、TG、HbA1C、proteinS (proteinC、AT 活性は希望者のみ)

初診料と子宮がん検査、超音波検査は保険

血液検査、STD 検査は自費

初診時は検査と説明のみ施行し、同意書をお渡しします。

(未成年者は可能なら保護者のサインもお願いします。)

2週間後、結果来院していただき、検査結果に問題なく同意書を確認できたら低用量ピル処方となります。この時、患者携帯カードをお渡しします。

② 最初の3か月は1か月ごとに問診、血圧、体重測定

③ 4か月以降は最大で3か月分処方可:問診、血圧、体重測定

④ 服用開始6か月後:問診、血圧、体重、

血液検査(末血、GOT/GPT,LDL,HDL,TG,HbA1C,d-dimer) →血液検査は自費になります。

⑤ 服用開始1年後および1年ごと:問診、血圧、体重測定、子宮頸がん検診、超音波検査、

血液検査(末血、GOT/GPT,LDL,HDL,TG,HbA1C,d-dimer) →血液検査は自費になります。

(STD 検査:任意)

⑥ 服薬休薬から4週間経過していたらまた初診扱いとなり再度1か月ごとの診察を3か月は必要です。

※低用量ピルを内服すると子宮頸ガンの原因ウイルスといわれている HPV(ヒトパピローマウイルス)の新規感染のリスクは増加しないが、既に感染している場合 HPV(ヒトパピローマウイルス)自然排除がされにくくなり HPV(ヒトパピローマウイルス)持続感染のリスクが高まるとされています。したがって1年1回の子宮頸ガン検診をさせていただきます。(1年以内に他院で検診済であれば省略します。)

※血液検査は貧血、肝機能、脂質異常症や糖尿病のリスク、血栓症の有無を把握する目的で行います。

上記のような副作用のある薬なので、未成年の方は保護者の方に内服している旨を伝えるようにしてください。